

Briefing Transcription

|| 2026 年 2 月期第 1 四半期決算説明文字起こし ||

株式会社 JRC

6224 東証グロース市場 機械

企業情報はこちら >>>

2025 年 7 月 23 日 (水)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 決算説明を受けての FISCO アナリストコメント	01
■ 説明者	02
■ 決算説明	03

■ 決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント

- ・ 前期 M&A による業績寄与のインパクトにより、2026 年 2 月期第 1 四半期は売上高だけでなく利益も大きく成長（売上高は前年同期比 44.1% の 3,394 百万円、営業利益は同 175.4% 増の 700 百万円）、上期業績予想と増配も発表され、極めて強い数字と感じた。
- ・ 主力のコンベヤ事業に加え、注目されるロボット SI 事業も、食品業界向け案件の期ズレの影響で売上高こそ計画に届かなかったものの、前年同期比では売上高・セグメント利益とも（売上高は前年同期比 1,0004.1% 増の 366 百万円、営業損益で黒字転換の 43 百万円と前年同期比 85 百万円増）と大きく伸長している。
- ・ これまでの成長スピードはもちろん、前期から 2028 年 2 月期、もしくは 10 年後の営業利益 CAGR の 2 桁増であることを考慮すれば、2028 年 2 月期中計達成時における PER20 倍も視野に入り、その株価は現状の約 2 倍となる 3,000 円程度が試算される。

■ 説明者

株式会社 JRC
代表取締役社長

浜口 稔様

■ 決算説明



■ JRC 浜口様

株式会社 JRC 代表取締役社長の浜口でございます。

7 月 15 日に公表しました 2026 年 2 月期第 1 四半期の決算についてご説明いたします。

2026 年 2 月期 第 1 四半期 決算説明資料 会社情報	
会社名	株式会社 JRC (英文社名 JRC Co., Ltd.)
本社所在地	大阪本社 大阪市西区阿波道 2-1-1 CAMCO 西本町ビル 5F 東京本社 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミューザ川崎セントラルタワー 24F
代表者	代表取締役社長 浜口 穂
創業	1961 年 4 月 (浜口商店 創業)
設立	1991 年 3 月 (株式会社 JRC)
資本金	131,415 千円 (2024 年 3 月 13 日現在)
従業員	459 名 (連結) (2025 年 2 月末現在)
事業内容	コンベヤ部品の設計・製造・販売及びコンベヤ設備の運用改善・メンテナンス 環境プラントのコンベヤを中心としたマテリアル機器の設計・製造・据付・メンテナンス ロボットを活用した自動設備などの設計・製造・販売
グループ会社	JRC C&M 株式会社 向井化工機株式会社 (JRC C&M 子会社) 株式会社高橋汽機工業 吉艾希商事 (瀧陽) 貿易有限公司 JRC IFM Co., Ltd. (持分法適用関連会社)

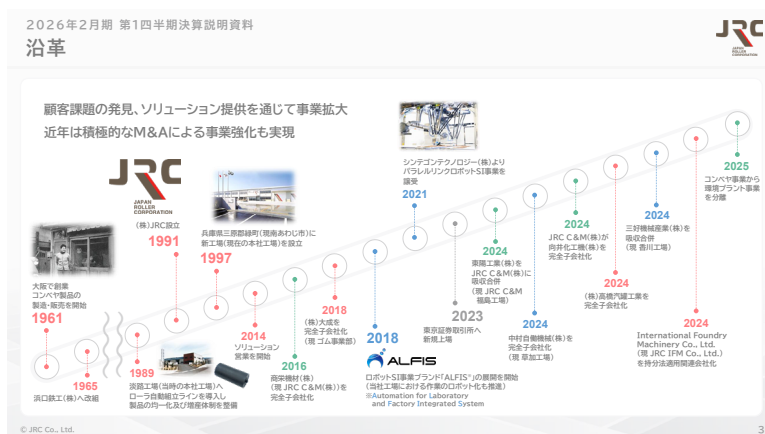
発見を、発展へ
Discovery to Development

すべては現場を基本としたリアルから見出し、
まだお客様にない視点での課題の「発見」から、
「不をなくすソリューション」を通じて
『発展』(JRC・お客様・社会)へと繋げていく意志を
『発見を、発展へ』という
企業スローガンとして表明しています。

当社は「発見を、発展へ」を企業スローガンとして、ニッチトップ・リカーリングなコンベヤ事業と、自社一貫の対応力を誇る環境プラント事業、製造業としての経験やノウハウを活かしたロボット SI 事業の 3 つの事業を展開しております。

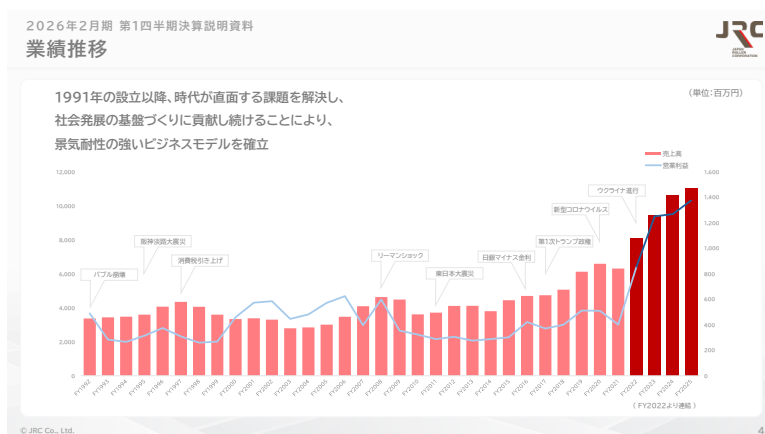
株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明



1961 年の創業以来、「お客様の課題を解決し、社会に貢献する」という考え方を貫き、顧客課題の発見と、その顧客課題に対するソリューションの提供を通じて事業を拡大してまいりました。

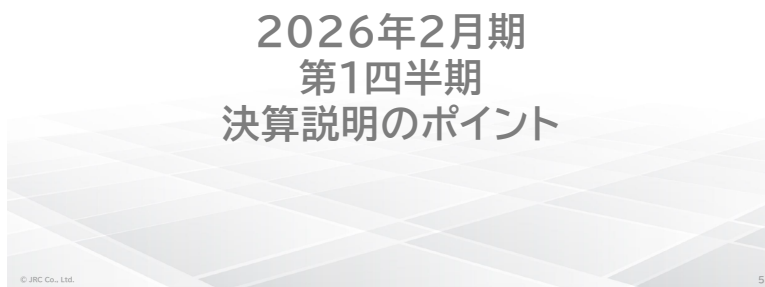
近年では、積極的に M&A を実施し、業容を拡大し続けております。



こちらは、1991 年の設立から現在までの業績の推移です。

これまで国内外において、様々な景況感のなかで事業を展開してまいりましたが、一貫して営業黒字を継続しており、景気耐性の強いビジネスモデルを確立しております。

決算説明



ここからは、2026 年 2 月期第 1 四半期決算についてご説明いたします。

まずは決算説明のポイントをご覧ください。

2026年2月期 第1四半期決算説明資料 決算説明のポイント	
第1四半期実績	・前期M&Aによる業績寄与のインパクトにより、売上利益ともに大きく成長 ・売上総利益率が41.3%と大きく改善し、営業利益率が20.6%まで高まる
コンベヤ事業	・堅調なソリューション、旺盛なリプレイス需要に加え、メンテナンスが好調に推移 ・高橋汽罐工業が計画比で大幅増益となり、セグメント利益率が31.9%まで拡大
環境プラント事業	・下期偏重の計画により、前年同期比ではセグメント利益は弱含むものの、向井化工機が好調に推移し、計画比では売上利益ともに上回る
ロボットSI事業	・期ズレの影響を受けるものの、前年同期比で売上利益ともに大きく上回る ・過年度2期の赤字スタートから一転、セグメント利益率11.9%まで成長
2026年2月期 連結業績予想	・第1四半期実績を踏まえ、上期業績予想を修正(通期予想は変更なし) ・当社配当方針に基づき、中間配当を1株当たり13円から14円に修正(年間28円予定)

© JRC Co., Ltd. 6

第1四半期の実績としましては、前期に実行しました M&A による業績寄与が本格化し、売上利益ともに大きく成長いたしました。

特に営業利益率につきましては、20.6% の水準にまで高まっております。

コンベヤ事業につきましては、堅調なソリューションや旺盛なリプレイス需要に加え、高橋汽罐工業を中心としたメンテナンスが好調に推移したことから、セグメント利益率が 31.9% まで拡大いたしました。

環境プラント事業につきましては、期初計画時点で下期偏重の業績を想定していたことから、セグメント利益としては前年同期比で弱含むものの、向井化工機が好調に推移したことから、計画比では売上利益ともに上回りました。

決算説明

ロボット SI 事業につきましては、食品業界向け案件の期ズレの影響を受けるものの、前年同期比で大きく成長いたしました。

これらの好調な実績を踏まえ、2026 年 2 月期上期業績予想を修正するとともに、中間配当を 1 株当たり 13 円から 14 円への修正を予定しております。

2026年2月期 第1四半期 決算概要



次に、2026 年 2 月期 第 1 四半期決算の概要についてご説明いたします。

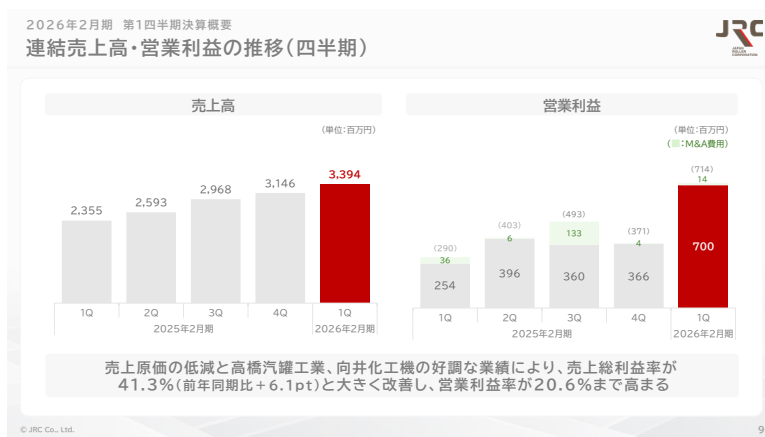
2026年2月期 第1四半期決算概要 第1四半期連結業績ハイライト				JRC	
売上高	前年同期比(増減)	事業計画	達成率		
3,394 百万円	+44.1% (+1,039百万円)	3,024 百万円	112.3%		
営業利益	前年同期比(増減)	事業計画	達成率		
700 百万円	+175.4% (+446百万円)	220 百万円	317.7%		
M&A費用等 前々年同期比	714 百万円 +146.1% (+424百万円)		324.3%		
・ 前期M&Aによる業績寄与が計画以上で推移し、前年同期比、計画比ともに大きく伸長 ・ 前期同様、当期も新たなM&Aの継続検討・準備に伴い、関連費用を一部計上					
© JRC Co., Ltd.				8	

第 1 四半期連結業績のハイライトとしましては、前期に実行しました M&A による業績寄与が期初の計画以上で推移したことから、売上高は前年同期比 44.1% の増加、営業利益は前年同期比 175.4% の増加となりました。

第 1 四半期の事業計画に対しては、売上高の達成率が 112.3%、営業利益の達成率が 317.7% と、それぞれ高水準で推移いたしました。また引き続き当期においても、積極的な M&A 展開に向けた取り組みを行っております。

株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明



四半期会計期間の連結業績につきましては、各事業における原価低減のための取り組みと、高橋汽罐工業ならびに向井化工機の好調な業績が加わり、売上総利益率が41.3%と大きく改善したことで、営業利益率が20.6%まで高まりました。

2026年2月期 第1四半期決算概要
連結損益計算書

	2025年2月期					2026年2月期	前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	
売上高	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	3,394	+44.1%
売上総利益	829	957	1,126	1,085	3,999	1,401	+69.0%
売上総利益率	35.2%	36.9%	38.0%	34.5%	36.1%	41.3%	+6.1Pt
営業利益	254	396	360	366	1,378	700	+175.4%
営業利益率	10.8%	15.3%	12.1%	11.7%	12.5%	20.6%	+9.8Pt
経常利益	258	407	365	375	1,407	673	+160.2%
当期純利益	245	278	221	332	1,078	516	+110.6%
E B I T D A	311	457	424	455	1,647	802	157.6%

© JRC Co., Ltd. 10

以上の結果、2026年2月期第1四半期連結業績は、

売上高 33億9千4百万円 (前年同期比+44.1%)

営業利益 7億円 (前年同期比+175.4%)

経常利益 6億7千3百万円 (前年同期比+160.2%)

当期純利益 5億1千6百万円 (前年同期比+110.6%)

となりました。

株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

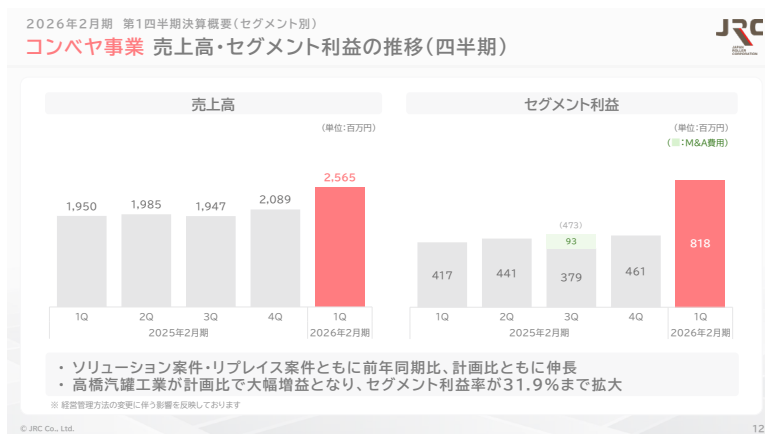
決算説明



次に、セグメント別業績についてご説明いたします。

コンパヤ事業の第1四半期業績のハイライトとしましては、堅調なコンパヤ部品に加え、高橋汽罐工業を中心としたメンテナンスが好調に推移したことで、売上高は前年同期比 31.5% 増加の 25 億 6 千 5 百万円、セグメント利益は同 96.3% 増加の 8 億 1 千 8 百万円となりました。

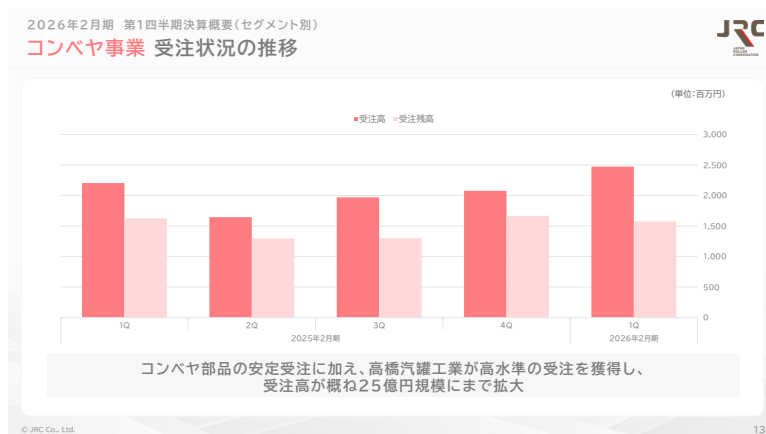
また事業計画に対しても、売上高の達成率が 120.4%、セグメント利益の達成率が 201.3% と、連結業績を大きく牽引いたしました。



四半期会計期間の業績につきましては、コンパヤ部品におけるソリューションとリプレイスが前年同期比、計画比ともに伸長したこと、高橋汽罐工業が計画比で大幅増益となったことで、セグメント利益率が 31.9% まで拡大いたしました。

株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明



第1四半期の受注状況としましては、好調なソリューションや新設案件、安定したリプレイス需要などに加え、高橋汽罐工業が高水準のメンテナンスを獲得したことで、受注高が概ね25億円規模にまで拡大いたしました。

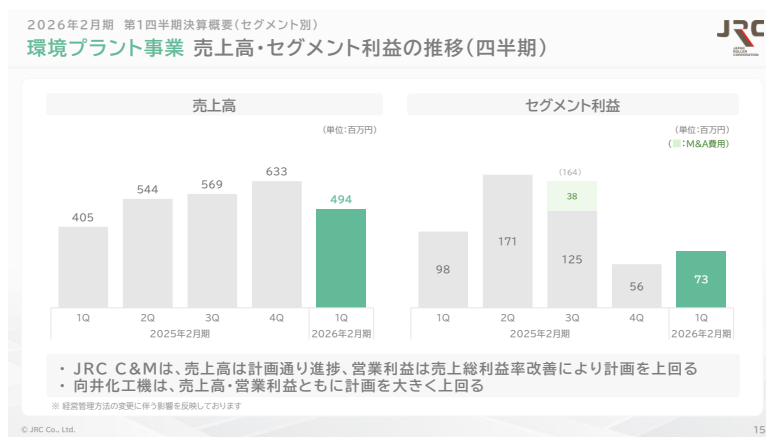


次に、環境プラント事業の第1四半期業績のハイライトとしましては、エンドユーザーが予算確定する4月以降に受注をいただき、その数か月後に売上計上する事業の特性を踏まえ、事業計画では下期偏重で策定しておりましたが、向井化工機が好調に推移したことで、売上高は前年同期比22.0%増加の4億9千4百万円、セグメント利益は前年同期比25.9%減少の7千3百万円となりました。

また事業計画に対しては、売上高の達成率が111.2%、セグメント利益の達成率が934.8%にまで高まりました。

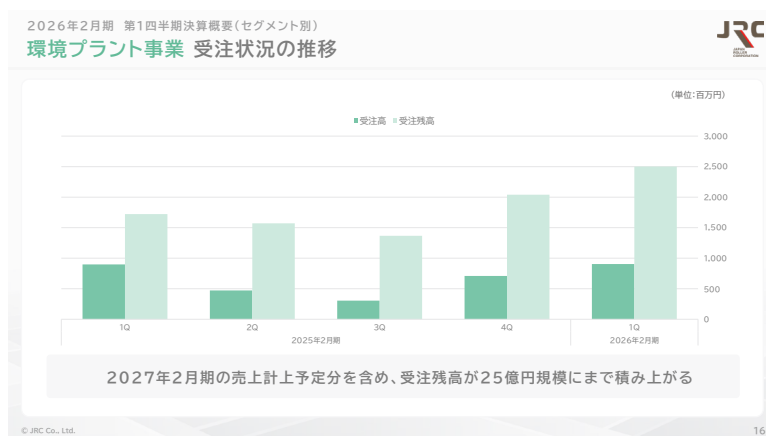
株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明



四半期会計期間の業績につきましては、環境プラント事業に属する JRC C&M につきましては、売上高は計画通り進捗する一方、売上総利益率の改善を進めたことで、営業利益は計画を上回りました。

向井化工機につきましては、売上高、営業利益ともに計画を大きく上回りました。



第1四半期の受注状況としましては、2027年2月期に売上計上となる案件を含め、受注残高が25億円規模にまで積み上がりました。

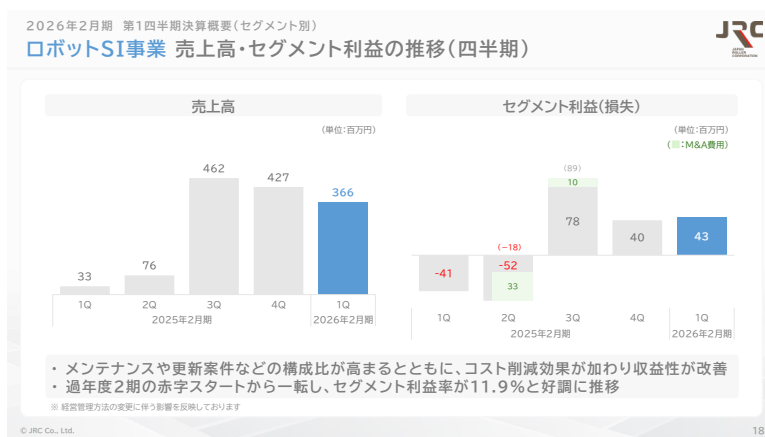
株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明



次に、ロボット SI 事業の第1四半期業績のハイライトとしましては、食品業界向け案件の期ズレの影響により、売上高は計画に届かなかったものの、前年同期比では売上高、セグメント利益ともに大きく上回りました。

その結果、売上高は前年同期比 1,004.1% 増加の 3 億 6 千 6 百万円、セグメント利益は前年同期比 8 千 5 百万円増加の 4 千 3 百万円と、事業セグメントとして大きな成長を遂げました。

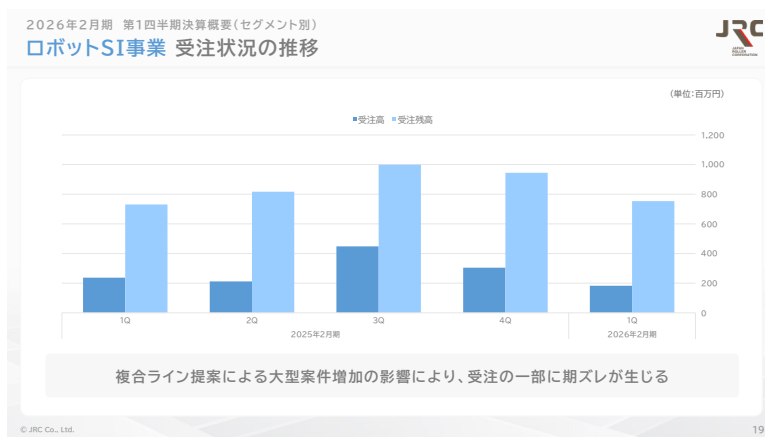


四半期会計期間の業績につきましては、利益率が高いメンテナンスや更新案件などの売上構成比が高まるとともに、販管費などのコスト削減効果が加わり、収益性が改善いたしました。

また、過年度2期の第1四半期はいずれも赤字スタートでありましたが、当期においてはセグメント利益率 11.9% と好調なスタートとなりました。

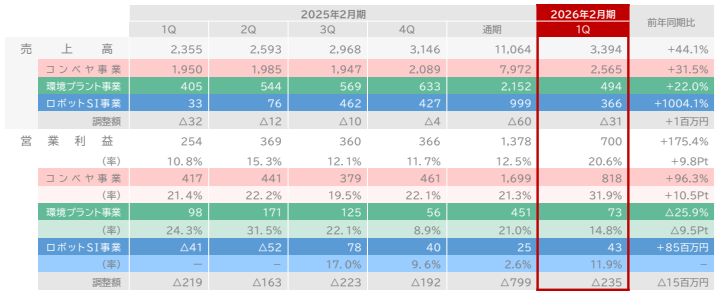
株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明



第1四半期の受注状況としましては、複合ライン提案による大型案件が増加するなかで、提案から受注に至るまでの時間が長引いたことで、受注の一部に期ズレが生じました。

2026年2月期 第1四半期決算概要(セグメント別)
セグメント業績



(単位:百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	2026年2月期 1Q	前年同期比
売上高	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	3,394	+44.1%
コンベヤ事業	1,950	1,985	1,947	2,089	7,972	2,565	+31.5%
環境プラント事業	405	544	569	633	2,152	494	+22.0%
ロボットSI事業	33	76	462	427	999	366	+1004.1%
調整額	△32	△12	△10	△4	△60	△31	+1百万円
営業利益	254	369	360	366	1,378	700	+175.4%
(率)	10.8%	15.3%	12.1%	11.7%	12.5%	20.6%	+9.8Pt
コンベヤ事業	417	441	379	461	1,699	818	+96.3%
(率)	21.4%	22.2%	19.5%	22.1%	21.3%	31.9%	+10.5Pt
環境プラント事業	98	171	125	56	451	73	△25.9%
(率)	24.3%	31.5%	22.1%	8.9%	21.0%	14.8%	△9.5Pt
ロボットSI事業	△41	△52	78	40	25	43	+85百万円
(率)	-	-	17.0%	9.6%	2.6%	11.9%	-
調整額	△219	△163	△223	△192	△799	△235	△15百万円

© JRC Co., Ltd. 20

以上、調整額を含めたセグメント業績につきましては、ご覧のとおりとなりました。

株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明

2026年2月期 第1四半期決算概要
連結貸借対照表

(単位:百万円)

資 産	2025年2月末	2025年5月末	増減額	備 考
流動資産	7,455	8,443	+987	主な要因: 現金及び預金、完成工事未収入金の増加
固定資産	5,558	5,073	△485	
有形固定資産	3,547	3,559	+12	
無形固定資産	708	685	△23	うち、のれん588百万円
投資その他の資産	1,302	828	△474	主な要因: 保険積立金の一部解約
資産合計	13,014	13,516	+502	
負 債				
流動負債	5,657	5,982	+324	主な要因: 短期借入金の増加
固定負債	2,742	2,528	△213	主な要因: 長期借入金の返済
負債合計	8,400	8,510	+110	
純資産				
純資産合計	4,614	5,006	+392	主な要因: 利益剰余金の増加、配当、SO行使による自己株式処分
自己資本比率	35.4%	37.0%	+1.6pt	

© JRC Co., Ltd. 21

次に、連結貸借対照表について、ご説明いたします。

第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて5億2百万円増加し、135億1千6百万円となりました。

これは主に、売掛金2億6千5百万円の減少、現金及び預金10億83百万円、完成工事未収入金1億9百万円の増加、投資その他の資産4億7千4百万円の減少によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて1億1千万円増加し、85億1千万円となりました。

これは主に、短期借入金5億円の増加、長期借入金1億1千8百万円の減少によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて3億9千2百万円増加し、50億6百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は1.6ポイント上昇し、37.0%となりました。

株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明

2026年2月期 第1四半期決算概要
KPI計画及び進捗

(単位:百万円)

		2025年2月期末実績					2026年2月期	計画	進捗率
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q		
全 社	売 上 高	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	3,394	13,663	24.8%
	営 業 利 益	254	396	360	366	1,378	700	1,728	40.5%
	営 業 利 益 率	10.8%	15.3%	12.1%	11.7%	12.5%	20.6%	12.7%	—
	R O E	—	—	—	—	23.4%	—	22.8%	—
コンパヤ事業	ソリューション 売 上 高	456	326	350	368	1,503	479	1,691	28.4%
	ソリューション 売 上 高 比 率	24.0%	16.9%	18.4%	20.6%	20.0%	27.4%	22.6%	—
環境プラント事業	受 注 高	897	471	305	709	2,384	893	3,100	28.8%
	セグメント利益	96	171	125	57	451	73	452	16.1%
ロボットSI事業	受 注 高	237	212	448	304	987	182	1,600	11.4%
	セグメント利益	△41	△52	78	40	25	43	73	58.9%

※ ソリューション売上高比率＝国内ソリューション売上高÷国内売上高

© JRC Co., Ltd. 22

2026 年 2 月期の KPI につきましては、ロボット SI 事業の受注高がスロースタートとなりましたが、環境プラント事業のセグメント利益は下期偏重計画によるものであり、全体としては良好に進捗しております。

引き続き、KPI 達成に向けて取り組んでまいります。

2026年2月期 連結業績予想

© JRC Co., Ltd. 23

次に、2026 年 2 月期 連結業績予想についてご説明いたします。

株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明

2026年2月期 連結業績予想
2026年2月期連結業績予想

(単位:百万円)

	2025年2月期		修正前上期予想 (4月14日公表)	2026年2月期			通期予想 (変更なし)
	上期実績	通期実績		修正後上期予想	増減額	増減率	
売上高	4,949	11,064	6,336	6,336	0	0.0%	13,663
営業利益	651	1,378	617	917	+300	+48.6%	1,728
営業利益率	13.2%	12.5%	9.7%	14.5%	-	+4.8pt	12.7%
経常利益	665	1,407	602	902	+300	+49.8%	1,713
当期純利益	523	1,078	365	571	+205	+56.2%	1,147

高橋汽罐工業の好調な業績により、2025年4月14日公表の上期連結業績予想を上回る見込みとなったことから、上期予想を修正（現時点では通期予想の変更なし）

© JRC Co., Ltd. 24

第1四半期連結累計期間においては、前期 M & A によりグループインした株式会社高橋汽罐工業が好調に推移したことから、計画を上回る進捗となりました。

この結果、第2四半期連結累計期間の業績につきまして、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益が前回予想を上回る見込みとなったため、前回発表数値から修正いたします。

なお、2026年2月期通期の連結業績予想につきましては、現時点で2025年4月14日公表の数値に変更はございません。

今後、修正が必要となった際には速やかに公表いたします。

2026年2月期 連結業績予想
2026年2月期セグメント別業績予想

(単位:百万円)

	2024年2月期 上期実績	2025年2月期 上期実績	2026年2月期			前年同期比	
			修正前 上期予想	修正後 上期予想	増減額	増減額	増減率
売上高	4,390	4,949	6,336	6,336	0	+1,387	+28.0%
コンベヤ事業	3,427	3,935	4,572	4,572	0	+636	+16.2%
環境プラント事業	783	949	1,043	1,043	0	+94	+9.9%
ロボットSI事業	196	109	748	748	0	+639	+584.7%
調整額	△17	△45	△49	△49	0	△4	-
営業利益	497	651	617	917	+300	+266	+40.9%
コンベヤ事業	742	858	960	1,260	+300	+401	+46.8%
環境プラント事業	126	269	111	111	0	△158	△58.8%
ロボットSI事業	△51	△93	19	19	0	+113	-
調整額	△320	△383	△473	△473	0	△89	-

© JRC Co., Ltd. 25

なお、第2四半期連結累計期間の業績予想の修正を受け、セグメント別業績予想につきましても、コンベヤ事業のセグメント利益を修正いたします。

株式会社 JRC | 2025 年 7 月 23 日 (水)
6224 東証グロース市場 機械

決算説明

2026年2月期 連結業績予想

株主還元

基本方針・配当予想

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、継続的かつ安定した配当を行うことを基本方針とし、連結配当性向30%程度を目安に配当の実施を目指しております。

このたび、第1四半期連結累計期間の業績及び第2四半期連結累計期間の業績予想の修正を受けまして、1株当たり中間配当金を前回予想から1円増額の14円とすることといたしました。これにより、当期の1株当たり年間配当額は前期から2円増額の28円となる予定です。

	1株当たり配当金				配当性向
	中間	期末	年間		
前回予想	13円	14円	27円		29.3%
今回予想	14円	14円	28円		30.8%
(ご参考) 前期実績 (2025年2月期)	13円	13円	26円		29.6%

© JRC Co., Ltd. 26

最後に、株主還元についてご説明いたします。

2026 年 2 月期につきましても、継続的かつ安定した配当を行う基本方針のもと、引き続き、連結配当性向 30% 程度を目安に、配当の実施を目指しております。

このたび、第 1 四半期連結累計期間の業績および第 2 四半期連結累計期間の業績予想の修正を受けまして、1 株当たり中間配当金を前回予想から 1 円増額の 14 円とすることといたしました。

これにより、当期の 1 株当たり年間配当額は前期から 2 円増額の 28 円となる予定です。

説明は以上になります。本資料をご確認いただき、誠にありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp